

原発事故被害 救済に意見

福島で全国研究・交流集会

第3回原発と人権全国研究・交流集会inふくしまは19日、福島市の福島大で開幕し、県内外からの参加者が、原発事故被災者が置かれている現状や、被害救済に向けた取り組みに理解を深めた。20日まで。

自由法曹団や、原発事故の訴訟に取り組む弁護士などをつくる実行委員会の主催。2012(平成24)年と14年にも開催しており今回は約360人が出席した。

19日は全体会が開かれ、鈴木浩福島大名誉教授・元県復興ビジョン検討委員会座長はこれまでの復興政策の問題点や今後求められる政策の方向性について講演。「帰還をめぐる避難者の意識は揺れ動いており、こうした気持ちに寄り添う施策が必要だ。『除染』『復興』『帰還』という単線型の復興シナリオではなく、政府はもっと複数のシナリオ



講演する鈴木名誉教授

を避難者に用意してほしい」と訴えた。このほか原発事故の訴訟に関わる原告

や弁護士が現状を報告した。20日は原発事故被害の救

済や政府の帰還政策、報道の在り方などのテーマごとに分科会を開く。

避難区域の四季紹介

「ヒロシマ」シリーズなどで知られ、国際的にも高い評価を受けている写真家土田ヒロミさん(76)が東京の写真展「願う者は叶えられるか」は19日、福島市荒町の県庁南再エネビル内のギャラリー・オフグリッドで始まった。東京電力福島第1原発事故の避難区域で四季の移ろいを撮り続けた写真約20点が並んでいる。入場無料。4月26日まで。

福島で写真家土田ヒロミさん



避難区域で四季の移ろいを捉えた写真を集めた土田さんの作品展

土田さんは2011(平成23)年6月から継続的に避難区域を訪れ、飯館村や浪江町津島、富岡町などの風景を写している。

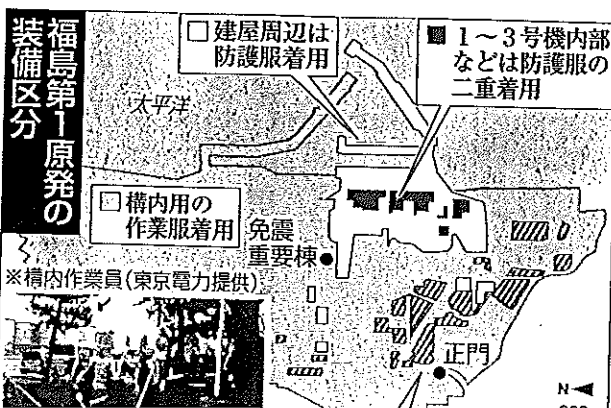
避難区域内を定点観測し、作付けを控えた田畑が時の経過とともに荒れていく様子や、人の姿が消えた後も変わらない美しさをたたえる里山の風景などを切

り取った。富岡町の宝泉寺では、かれんな花を咲かせた桜と周りに生い茂る草木、さらに除染で表土が剥ぎ取られて一変した様子などの変化を追っている。作

品にはデジタル加工で「FUKUSHIMA」の文字がうっすらと刻まれている。土田さんは「風景そのものとして写真を見ると文字は見えなくなる。文字の存在を意識することによっ

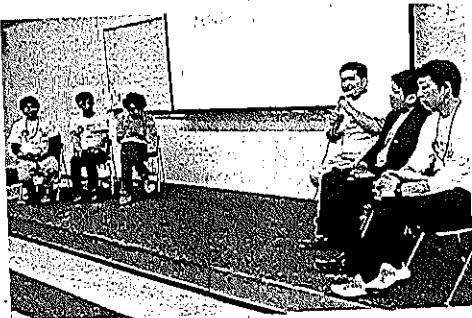
て、福島のことを考えてほしい」と思いを語った。博物館長は同ギャラリーは26日(電話02-006)へ

除染により放射線量が下がった東京電力は福島第1原発の敷地を応じて区分けし、今月から1〜4周辺や汚染水保管タンクエリア以護服を不要とし、作業服の着用をどう装備を軽装化した。防護服は夏症の原因にもなっており、東電は負担軽減につながるとしている。



化に「キーン」として、あるいは、よきから逃げない社会へ、あるいは、逃げられる社会から逃げられない社会へ」と、列島に響らす人々は生存の戦略を変えてきた。わたしたちはそれと知らず、「逃げられない社会」に身を置き、「逃げない」ことを生存のモラルとして選び取り、「逃げる」ことへの軽蔑や嫌悪を肥大化させてきたのだ。さて、西田さんはこう語り納め対していた。「定住することによって失ったものにも思いを馳せねばならない。ノマドの生き方とその歴史に向かい合う時が来た」と。『定住革命』はいまも大切な書物でありかえり続けている。(県立博物館長)

双葉郡復興へ意見交換 郡山住民ら「未来会議」



双葉郡の現状や課題に理解を深めた「本会議」

双葉郡の住民が古里の現状や課題に理解を深める「双葉郡未来会議」(平山勉代表)の「本会議」は十九日、郡山市民文化センターで開かれ、東京電力福島第一原発事故に伴う避難指示解除を見据える現在の富岡、浪江、葛尾三町村の復興の方策を探った。双葉郡の住民や、県内外の支援者ら約百五十人が来場した。郡内の現状を説明した後、

誤りがあったとして原子力規制委員会に出していた埋設の申請を取り下げた。九州電力文海原発(佐賀県玄海町)の廃棄物で、九電が示した放射能の数値に誤りがあった。原因によると、二〇一六年度に搬入予定の廃棄物入りドラム缶千七百二十本のうち、一本のデータが間違っていた。ドラム缶表面の

川内差し止め
来月6日判断
九州電力川内(せんだい)原発1、2号機(鹿児島県薩摩川内市)の周辺住民らが再稼働の周知を求めた仮処分差し止めを求めた仮処分申し立ての即時抗告審で、福岡高裁宮崎支部は十九日までに、四月六日午前十時半に決

の処理を続けた。定を出す住民側に通知した。弁護団が明らかにした。原発の再稼働差し止めをめぐるのは、大津地裁が九日、関西電力高浜原発3、4号機(福井県高浜町)の運転を差し止める仮処分を決定しており、福岡高裁宮崎支部の判断が注目される。

富岡、浪江、葛尾三町村の住民代表がそれぞれの被災状況や復興・復興の現状、まちづくりの方向性、行政の取り組みなどを報告した。報告者を変えたパネルディスカッションも行われ、「避難指示解除後には祭りやイベントを催して、地元を盛り上げたい」「住民それぞれの考え方を尊重しながら活動するべき」などの意見が出た。避難先を建てたという住民は「帰還すれば、家族と離れて暮らすのが嫌な感じがするが、前向きに取り組んでいきたい」と語った。来場



復興政策の課題について語る鈴木氏

「原発と人権」全国研究・交流会は十九日、福島市の福島大で開幕した。東京電力福島第一原発事故による被災者の救済や原発の廃止などをテーマに、二十日まで全体会や分科会を繰り広げる。実行委の主権、福島

民報社などの後援。初日は県内外から約三百六十人が参加した。福島大の鈴木浩名教授が復興政策の問題点について講話した。避難区域で行われている住民意向調査の結果などを踏まえ、除染から復興、帰還という流れの「ナリオ」と批判。長期間にわたり帰還しない被災者の生活再建につながるプログラムが必要だと訴えた。弁護士や原発事故関連訴訟の原告団代表らが裁判の状況などを発表した。集会は平成二十四年、二十六年に続いて三回目。

改修ため池耐震性検証

兵庫県など震度6弱で決壊せず

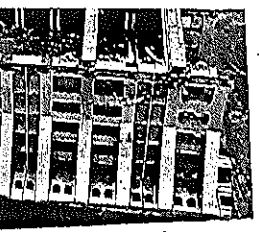
全国各地の農業用ため池には老朽化により決壊が懸念されるもの

があるため、防災科学技術研究所と兵庫県は、実大三次元震動破壊実験施設(Eーディ

フェンス、同県三木市)で、改修を施した土槽の耐震性を検証した。土槽は池に見立てて土で作り、二種類の工法で改修。水を入れ、震度6弱相当の揺れを加えたが、いずれも決壊

しなかった。農業用ため池は、東日本大震災で損壊などの被害が出たため、耐震補強が進められている。実験では、水を通しにくい粘土を補う「前

刃金工法」と、厚さ数ミリの粘土を織布などで挟んだシートを使う「遮水シート工法」でそれぞれ改修した土槽(長さ一六・五メートル、幅五・四メートル、高さ四・三メートル)に水を入れ調べた。



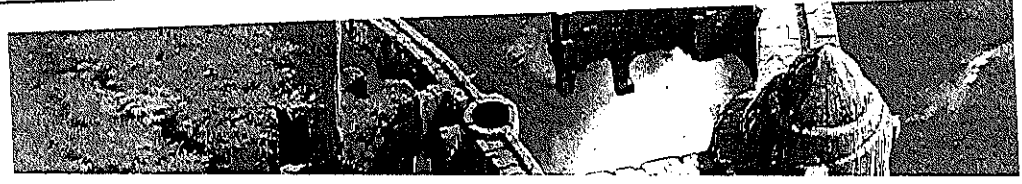
種類の工法で改修実験-兵庫県 破壊実験施設

「感震ブレイカー」普及促進策を発表

政府は、地震の揺れを感知して電気を自動

に、電気設備業者を通じて建て主に設置を求め、電気ストープに衣類や家具が落下するなどして起きる火災を抑制する。感震ブレイカーは、設置を促すのは、信頼性の高さを考慮

「ショー&サイン会」より 山形美術館 3階ホール 無料(小中学生以外は要入場券) 当日 観覧の購入者を対象に先着

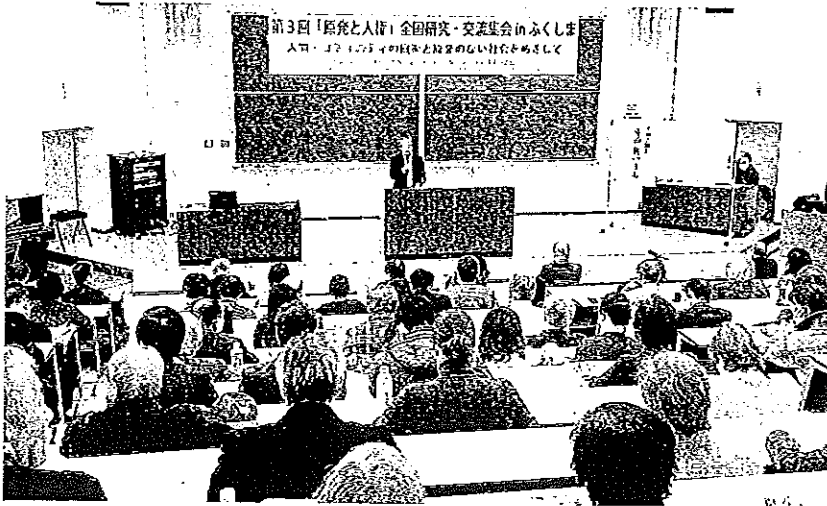


天空の

ふるさとを返して 生活保障を切り捨てるな

「原発と人権」全国研究・交流集会

原発のない社会をめざして第3回「原発と人権」全国研究・交流集会inふくしま（同実行委員会主催）が19日、福島市で2日間の日程で始まり、1日目の全体会には約320人が参加しました。



「原発と人権」全国研究・交流集会1日目の全体会。19日、福島市

空調設備設置したい

員要求

「教員が障書児のために教材を工夫しているのに感心した。現場の声

寺西俊一実行委員長（日本環境会議理事長）が「福島県の復興・再生の政策を本来のあり方に向けて転換させていく第一歩にしよう」とあいさつしました。原発事故被害者ら6人が現状報告。避難指示が解除された楢葉町の早川篤雄さん（原発被害者訴訟原告団全国連絡会共同代表）は、住民の6%しか帰還していない実態を示し「避難指示解除はそれ以後の生活保障を切り捨てるだけのもので、復興とはいえない」と述べました。川俣町に住む清野賢一さんは「私の住む地

区は避難指示区域でないため、東電は賠償はしないという態度。住民一体となって、賠償請求のたたかきを進めると話しました。帰還困難区域となっている浪江町津島地区の今野秀則さんは「ふるさとへ帰れないことは本当につらい。原発

事故は被災地域のコミユニティー、歴史や文化をすべて断ち切るものだ」と訴えました。ジャーナリストや科学者、弁護士らが、福島第1原発の現状や復興政策の問題点と原発関連訴訟の到達などについて報告しました。

ブラックバイトに だまされない

若者たちが対策学ぶ

東京

賞金不払い一掃を呼びかける「N.O.M.O

本村議員は「全国の特別支援学校のマンモ

事故は被災地域のコミユニティー、歴史や文化をすべて断ち切るものだ」と訴えました。ジャーナリストや科学者、弁護士らが、福島第1原発の現状や復興政策の問題点と原発関連訴訟の到達などについて報告しました。

日中学生会議で草の根 相互理解深め

30年にわたり、日本と中国の草の根交流を日中学生会議です。今年、35回目を迎える同会議の実行委員長を務める王萌子さん（22）



日中学生会議「日中戦」を理念に、学生が共同生活や相互理解を深める学生立。文部科学省や外務省開催し、第35回の今年は

例を解説していきました。会場の女性から「私の職場は出勤時間が手書き記入です」と質問があり、佐々木弁護士は「記録は、なるべく客観的であるべきです。そうしないと実際より短く記録する場合があります」と答えまし

泥棒プロジ



泥棒プロジ

「教員が障書児のために教材を工夫しているのに感心した。現場の声